

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 静岡サレジオ小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒424-8624
静岡市清水区中之郷 3-2-1

E-mail prim3@ssalesio.ac.jp

Website http://www.ssalesio.ac.jp/primary/

児童生徒数 男子 142名 女子 196名 合計 338名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

テーマ

国際理解・福祉教育を中心に据えた
オーストラリア姉妹校との共同 ESD 授業の実現

具体的な取り組み

〈5年生 English Camp〉

目的：

- ・日本人としてのアイデンティティーの確立…自国の文化に対する見識を深め、日本人としての意識を高める。
- ・国際理解の促進…オーストラリアの教員、本校ネイティブ教員との交流から、異文化についての理解を促す。
- ・言語（英語）の獲得…シチュエーションからパターンとして言葉を獲得し、コミュニケーションを通して必要な言葉を獲得していく。

上記3つの目的を軸に、山梨県立なかとみ青少年自然の家で2泊3日の English Camp を行った。

活動内容：

1日目（7月7日）

自己紹介ゲーム

有名なアニメなどに出てくるキャラクターになったつもりで自己紹介ゲームを行った。自分が引いたキャラクターの名前を自分の自己紹介で、他の児童に当ててもらおうというクイズの形をとった。文を考える際、各グループのネイティブ教員がそれぞれのキャラクターの特徴を聞き出しながら、文作りのサポートをした。

伝統工芸体験（和紙作り・草木染め）

中富に伝わる伝統工芸の和紙作り・草木染めを行った。施設の方に説明いただいた作り方を、児童がネイティブ教員に身振り手振りを加えながら説明している姿が多く見られた。また、初めてこのような体験をしたとの声も聞かれた。

2日目（7月8日）

郷土食づくり（ほうとうづくり）

甲斐に伝わる伝統食である「ほうとうづくり」を行った。生地を練るところから教わり、野菜を切ることも自分たちで行った。その際にも、ネイティブ教員にやり方を教える児童が多くみられるようになった。

英語劇づくり・発表

今回の English Camp の中で、集大成としてとらえた活動である。日本に昔から伝わる話（桃太郎・金太郎・竹取物語など）を英訳している絵本を使用し、それを見ながら自分たちオリジナルの劇を完成



させ、披露するというものであった。グループ単位での活動であるが、中心となったのは英語を得意としている児童たちであった。英語に苦手意識を持つ児童に、文の意味を教えたり、読み方・発音を教えたりする姿があった。また、劇の発表に対して、審査員（ネイティブ教員）が判定するということもあり、英語が苦手な児童も積極的に練習に参加していた。練習の段階で、ネイティブ教員もアドバイスやサポートに入ってもらい、児童もわからない部分などを質問したりしていた。

発表では、自分たちが選んだ物語を軸にしながら、観客を喜ばせようとアレンジを加えパフォーマンスをしていた。

3日目（7月9日）

English Activity

来年のオーストラリア修学旅行に向けて、実際にあるシチュエーションを想定して、その時に使用する会話の練習を行った。フードコートでの買い物、ホームステイ先での食事やホストファミリーへの家族紹介の3つのシチュエーションを用意し、グループごとに行った。

クリケット体験

オーストラリアで最も親しまれているスポーツの一つであり、来年の修学旅行でも行う。英語での説明を事前の授業で聞いた上で、実際に今回体験をした。

〈6年生 オーストラリア修学旅行〉

目的：

5年生での English Camp を受け、

- ・日本人としてのアイデンティシーの確立
- ・国際理解の促進
- ・言語（英語）の獲得

の3つの柱を中心とし、9日間のオーストラリア滞在を通じて、より実践的な活動を行った。本校の姉妹校であるセントメアリー小学校での活動を中心としている。



活動内容：

ホームステイプログラム

2人1組となり、セントメアリー小学校の児童の家に、5泊6日のホームステイを行った。

最初のうちは、緊張のためか、なかなか会話が進まない様子の児童が多かった。しかし、ホストファミリーの子ども達と遊びを通して打ち解けると、今まで学習したことを思い出し、自信を持って会話をするようになっていた。

交流授業

セントメアリー小学校の授業に参加し、音楽や図工、体育など、様々な科目を通して、オーストラリアの文化について理解を深めた。

また、本校の教員が日本の歌や歌留多を紹介する授業では、子ども達が英語で補足説明をし、自分たちの



文化についても深く考え、伝える機会となった。

キッズフェア・さよならパーティー

お世話になったセントメアリー小学校に感謝の気持ちを表すため、日本の遊びや祭りをテーマにキッズフェアを行った。ヨーヨー釣りやめんこ、けん玉など、日本ならではの文化を、英語を使って説明し、自分たちがホストとなって、セントメアリー小学校の児童を多いに楽しませた。

夜には、ホームステイ先の家族を招き、日本の踊りや歌を披露した。最後には、本物の家族が別れを惜しむように、ホストファミリーと抱き合い、感謝の言葉を伝えていた。

成果と課題

自国の文化を大切にしながら、他の国の文化も学び受け入れるという姿勢を育むことができた。先に記した、どちらの実践も子供たちが主体となって、体験し学ぶ場となっている。その中で、自分が社会・世界の一員であることを感じながら、多様な人々がいて、多様な考え方があると知ることができたのではないか。

また、福祉の観点からも自分以外の人々（友達・ネイティブ教員・ホームステイ先の方々など）と一緒に生活することで、共に生きる喜びや共に学ぶ喜びを感じ取っていた。

今後の課題となるのが、活動を通して高まった意欲とともに、どのようにスキル（特に言語スキル）を身に着けるかという点だ。自分の国を見つめ、世界に目を向けたとき、子供それぞれに将来のビジョンを持ち始める。その時、学校教育として個々に合ったスキルを提供できるかという点はこれから研究推進していく必要がある。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（)